



弘前大学 医学部 医学科

School of Medicine



HIROSAKI UNIVERSITY 2020



医学部医学科 School of Medicine

■弘前大学問合せ先一覧

本学部案内の内容について質問等がある場合は、
下記にお問合わせください。

◎授業内容・カリキュラムについて

医学部医学科教務担当 TEL 0172-39-5204

◎入学試験について

入試課 TEL 0172-39-3122・3123

◎学生寮について

学生課課外教育担当 TEL 0172-39-3107・3115

◎奨学金・授業料等免除について

学生課経済支援担当 TEL 0172-39-3117・3135

●弘前大学ホームページアドレス

<http://www.hirosaki-u.ac.jp/>

●医学部医学科ホームページアドレス

<http://www.med.hirosaki-u.ac.jp/>

弘前大学 医学部医学科で 学ぶということ。

豊かな人間性と高度な医学知識に富み、広い視野と柔軟な思考力をもって社会的役割を果たすことができる医師および医学研究者を養成するため、効果的に医学を学ぶことのできるカリキュラムのもと、人間性と社会性を高めることのできる教育を行っています。

医学は自然科学の一分野にとどまらず、人文・社会科学をも含めた総合科学です。時に困難を極めるこの世界に、私達は若い力の挑戦を求めています。



医学部長 若林 孝一

学部長挨拶

弘前大学医学部は1944年の青森医学専門学校を母体としています。東北では二番目に設立された医学部であり、6662名の卒業生を世に送り出してきました。

医学科の教育課程の特色は「地域を志向した教育」、「社会の変化に対応した教育」、「リサーチマインドの育成」にあります。1年次から早期臨床体験実習を行い、6年次のクリニカルクラークシップでは4週間の地域（へき地）医療実習を義務付けています。被ばく医療学、医療安全学は社会のニーズに対応した授業です。3年次の研究室研修では、マンツーマンで研究の手ほどきを受けます。これらの教育を実践することで、広い視野と柔軟な思考力を有し、郷土を愛する医師の育成を目指しています。

各教室では特色のある先端的研究が行われており、生活習慣病や社会の疾病構造の特性を踏まえた研究（がん、心疾患、脳疾患等）を展開しています。

附属病院は青森県における医療の中核的役割を担っています。地域医療への貢献に加え、高度救命救急センターは被ばく医療の拠点にもなっています。

弘前は春には日本一の桜があり、夏はねぶた祭、秋にはりんごが実り、冬にはスキーや温泉が楽しめる城下町です。都会の喧騒から離れ、本物の豊かさを実感してください。

Mission

弘前大学医学部・医学研究科ミッション

沿革

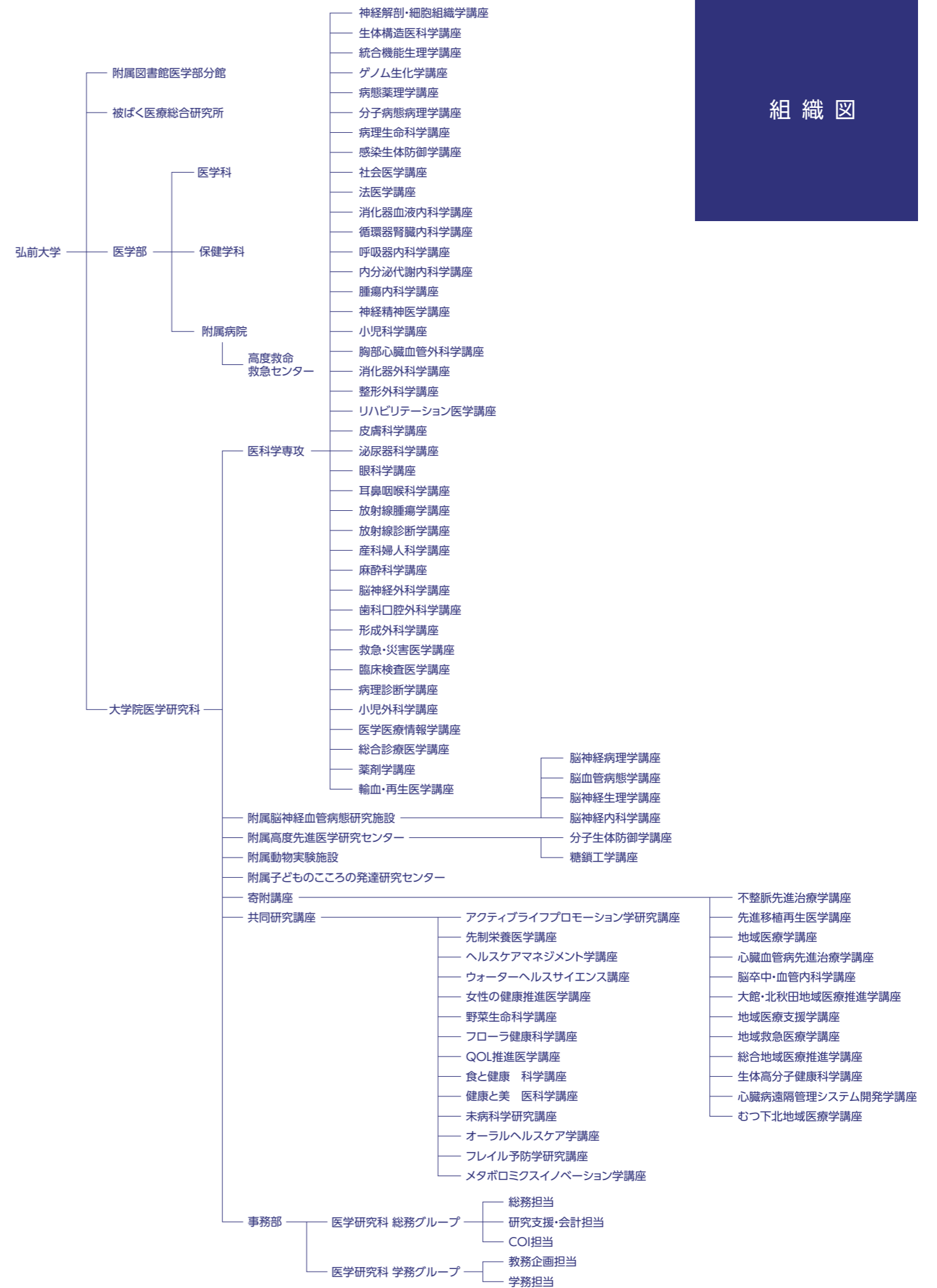
医学に関する教育・研究を行うことを目的に、国立青森医学専門学校、弘前医科大学を経て、弘前大学医学部として設置された。

- 昭和19年(1944年)国立青森医学専門学校設置
- 昭和23年(1948年)弘前医科大学設置
- 昭和24年(1949年)国立学校設置法による弘前大学設置と同時に医学部設置
- 昭和33年(1958年)大学院医学研究科設置
- 平成16年(2004年)国立大学法人に移行

特色

- 地域の活性化に貢献し、かつ世界的な視野を持った医師・研究者の育成を積極的に推進する。
- 健康増進プロジェクトにおける生活習慣病研究や地域の疾病構造の特性を踏まえた研究(がん、心疾患、脳疾患等)及び神経科学分野における研究を始めとする実績を活かし、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上を目指すとともに、次代を担う人材を育成する。
- 青森県の三次被ばく医療機関とし、また、県内唯一の高度救命救急センターとして、県内の被ばく医療及び高度救命救急医療を担うとともに、被ばく医療関連の教育・研究を行い、国内外でリーダーシップのとれる医師等の養成を積極的に推進する。

組織図





基礎医学講座・高度先進医学研究センター

基礎医学講座

神経解剖・細胞組織学
Neuroanatomy, Cell Biology and Histology
授業科目では「脳の科学」のうち脳の構造に関する授業と実習および顕微鏡による人体の構造の授業と実習をしています。

生体構造医科学
Anatomical Science
医学部教育の柱となる人体の構造、特に肉眼レベルでの構造や個体発生についての講義および実習をしています。

統合機能生理学
Physiology
脳における随意運動の決定・企画・構成・準備など、さまざまな脳機能について、また生体の糖代謝を調節する仕組みについて、細胞および分子レベルの研究を進めています。

ゲノム生化学
Biochemistry and Genome Biology
がんになりやすさと遺伝子多型(個人差)の関係、分化や細胞死などの誘導を研究し、予防、治療法の開発に貢献しています。

病態薬理学
Pharmacology
心血管系疾患の不整脈、狭心症、心不全や高血圧などの発生機序とそれらの治療薬の作用機序、脊髄後縦靭帯骨化症の成因と治療法を研究探索しています。

分子病態病理学
Pathology and Molecular Medicine
人体標本について病理診断を行うとともに、病気の原因や成り立ちを調べ、新しい治療法を探索しています。

病理生命科学
Pathology and Bioscience
がん細胞の特徴を見出し、その増殖や転移を抑制する研究、生物時計(体内で一日のリズムを刻む)の遺伝子レベルでの機能解析の研究をしています。また、がん診断(顕微鏡レベル)で医療に貢献しています。

感染生体防御学
Microbiology and Immunology
細菌・ウイルス・寄生虫などの感染症の発病・病理機序と予防・治療、感染症を含む炎症性疾患に対する免疫系の研究を行っています。

社会医学
Social Medicine
地域社会で生活する住民の疾病予防や健康の維持・増進を目指す活動・研究を行っています。

法医学
Forensic Medicine
犯罪や事件、事故の疑いがある状況で亡くなった方々の死因や身元を医学的に究明する仕事をしています。

高度先進医学研究センター

分子生体防御学
Stress Response Science
酸化ストレス疾患との関係を分子生物学やマウス発生工学を用いて研究しています。

糖鎖工学
Glycotechnology
細胞の接着や情報伝達などに関与する糖鎖の研究を行い、医学、治療学への応用(糖鎖医学)を目指しています。

脳血管病態研究施設・寄附講座・共同研究講座

脳神経血管病態研究施設

脳神経病理学
Neuropathology
脳疾患の病理診断に加え、神経難病の病態解明を目標に形態と分子の両面から研究を進めています。

脳血管病態学
Vascular Biology
脳血管障害(脳卒中)の予防・治療を目的に、血管系および神経系の細胞生物学的研究を行っています。

脳神経生理学
Neurophysiology
遺伝子異常を導入した動物を用い、神経疾患の発症機構の研究を行っています。

脳神経内科学
Neurology
脳神経疾患の研究と附属病院神経内科の診療を担当。今世紀は脳の世紀、患者さんを通して神経系の謎に挑む部門です。

寄附講座

不整脈先進治療学
Advanced Management of Cardiac Arrhythmias

先進移植再生医学
Advanced Transplant and Regenerative Medicine

地域医療学
Community Medicine

心臓血管病先進治療学
Advanced Cardiovascular Therapeutics

脳卒中・血管内科学講座
Stroke and Cerebrovascular Medicine

大館・北秋田地域医療推進学
Community Healthcare Development in Odate and North Akita

地域医療支援学
Community Medical Support

地域救急医療学
Community Emergency Medicine

総合地域医療推進学
Development of Community Healthcare

生体高分子健康科学
Biopolymers and Health Science

心臓病遠隔管理システム開発学
Cardiac Remote Management System

むつ下北地域医療学
Community Healthcare Development in Mutsu and Shimokita

共同研究講座

アクティブライフプロモーション学
Active Life Promotion Sciences

先制栄養医学
Preventive Nutrition and Laboratory Medicine

ヘルスケアマネジメント学
Healthcare Management

ウォーターヘルスサイエンス
Water Health Sciences

女性の健康推進医学
Women's Health Care and Promotion

野菜生命科学
Vegetable Life Science

フローラ健康科学
Microbial Flora and Health Science

QOL推進医学
QOL and Health Promotion

食と健康科学
Diet and Health Sciences

健康と美 医科学
Health and Beauty Science

未病科学研究
Mibyouscience

オーラルヘルスケア学
Oral Healthcare Science

フレイル予防学
Frailty Research and Prevention

メタボロミクスイノベーション学
Metabolomics Innovation



臨床医学講座

消化器血液内科学

Gastroenterology and Hematology

消化器疾患・血液疾患・膠原病の診療とヘリコクター感染・炎症性腸疾患・血小板機能などの研究を行っています。

循環器腎臓内科学

Cardiology and Nephrology

心疾患、腎臓病の診療と研究を行っています。不整脈・心筋梗塞・腎炎・腎不全など生命にかかわる重要な疾患を担当しています。救急医療にも力を入れています。

呼吸器内科学

Respiratory Medicine

慢性肺疾患や肺病など呼吸器疾患の診療と研究を行っています。高齢化社会においては、重要な疾患を担当しています。

内分泌代謝内科学

Endocrinology and Metabolism

下垂体、甲状腺、副腎など内分泌腺の疾患、また生活習慣病として社会問題化している糖尿病や高脂血症について、専門的診療・研究を行っています。

腫瘍内科学

Medical Oncology

日本人の死因の一位はがんです。様々な悪性腫瘍の内科的治療を担当し、青森県のがん死亡者の減少を目指して、教育・診療・研究に励んでいます。

神経精神医学

Neuropsychiatry

私たちは「ここで治らなければ他でも治らない」という意気込みで、診療・教育・研究に従事しています。

小児科学

Pediatrics

優秀な専門医が各々の専門診療・教育・研究を活発に展開し、青森県のこども病院の役割を担っています。

胸部心臓血管外科学

Thoracic and Cardiovascular Surgery

心臓血管外科と呼吸器外科を中心とした外科の臨床と研究を行っています。患者さん中心の医療を掲げ、手術症例数は多く、周辺病院から紹介された困難な手術を手がけています。

消化器外科学

Gastroenterological Surgery

消化器・甲状腺・乳腺疾患に対し手術を中心とした診療技術の鍛錬・開発を行っています。

整形外科

Orthopaedic Surgery

整形外科への社会的ニーズの増大に対して、最先端医療にて対応しています。

リハビリテーション医学

Rehabilitation Medicine

運動などの機能障害からの回復を目指すと共に、予防医学的アプローチによる診療と研究を行い、高齢化社会への貢献を目指しています。

皮膚科学

Dermatology

先天性皮膚疾患の遺伝子診療、皮膚悪性腫瘍に対する先駆的な検査、治療法の開発に取り組んでいます。

泌尿器科学

Urology

前立腺癌、腎癌、膀胱癌などの悪性腫瘍、腎不全、腎移植、排尿障害などの診断から治療までをトータルマネジメントしています。

眼科学

Ophthalmology

患者さんの診療に加え、色々な眼の病気の新しい治療法の研究・開発を行っています。

耳鼻咽喉科学

Otorhinolaryngology

21世紀はQuality of Lifeにとって重要な感覚器(聴覚・平衡覚・嗅覚・味覚)を取り扱う耳鼻咽喉科の世紀です。

放射線腫瘍学

Radiation Oncology

全身のがんに対応できる放射線治療専門医の育成と難治癌に対する新たな治療法の研究・開発に取り組んでいます。

放射線診断学

Radiology

最先端医療機器による画像診断とIVRを通じて、社会に貢献できる画像診断専門医の育成と研究活動を行っています。

産科婦人科学

Obstetrics and Gynecology

産科医学、腫瘍学、生殖医学から構成され、内科、外科、女性科、新生児科を総合した医学です。

麻酔科学

Anesthesiology

臨床麻酔、集中治療、陣痛外来、終末期医療を通じて全人的医療を目指しています。

脳神経外科学

Neurosurgery

「医療は地域に、医学は世界に」を胸に、脳神経外科最先端医療の開発とその地域医療への提供を実践しています。

歯科口腔外科学

Dentistry and Oral Surgery

口腔顎顔面の構造と機能を正しく理解し、医師として最低限必要な顎口腔疾患の診断と治療に関する事項を担当しています。

形成外科学

Plastic and Reconstructive Surgery

乳房再建や外傷後の傷跡を目立たなくするなど、患者さんの生活の質を高める治療を行っています。

救急・災害医学

Emergency and Disaster Medicine

大学病院高度救命救急センターでの重症傷病者に対する救急医療、災害時救急医療の研究教育を行い、地域の救急の要になることを目指しています。

臨床検査医学

Clinical Laboratory Medicine

主に新たな検査マーカーや検査法の開発およびその評価について検査部スタッフと協力に取り組んでいます。

病理診断学

Anatomic Pathology

生検診断、手術検体診断、細胞診、病理解剖など臨床医療としての役割を担い、医療の質に貢献すべく励んでいます。

小児外科学

Pediatric Surgery

出生後すぐ手術をしなければ死亡する先天性異常や小児がんなど、外科的治療を必要とする子どもの病気を扱います。

医学医療情報学

Medical Informatics

病院情報システムの開発・運用と診療録管理を行い、診療の充実を図ります。病院管理学の学部講義も行っていきます。

総合診療医学

General Medicine

専門化・細分化した現代医療の中で、全人的に人間を捉え、特定の臓器・疾患に限定せず多角的に診療を行う分野です。医学教育やプライマリケアにも力を入れています。

薬理学

Pharmaceutical Science

適正な薬物療法を支援するために、医薬品の管理、供給、情報の提供および患者さんへの服薬指導を行っています。

輸血・再生医学

Transfusion and Cell Therapy Medicine

ヒトからヒトへの命を繋ぐ、安全で適正な輸血・再生医療の提供に取り組んでいます。

地域医療に貢献し
臨床と研究の両立を目指したい

医学部医学科2年
津川 創 さん
●青森県立青森高等学校出身

私が中学生の時、父が2度にわたって病気で入院しました。その時、適切な治療はもちろんのこと、私たち家族の心理的ケアをしてくださった医師の姿に深い感銘を受けました。「情と理」を尽くして人の苦しみを軽減する医師という仕事に憧れ、医学を志しました。

弘前大学は、地域医療に貢献する臨床医を数多く輩出している一方で、地方にありながら世界レベルの先進的な研究をされている先生方もいらっしゃいます。現在、生理学や解剖学、生化学などの専門科目について学んでいますが、先生と学生の距離が近く、講座も少人数制のため、安心して学べる環境が整っていると感じています。

所属している「漢方医学研究会」では、文化祭で漢方喫茶を開くなど仲間と楽しく活動しています。また、子どもの頃から青森ねぶたの制作に関わるなどのづくりが好きで、全学の美術部にも所属しています。将来は、青森県の医療に貢献するため大学に籍を置き、県内の病院を回る臨床と、大学での研究の両方に携わりたいと考えています。受験勉強は大変だと思いますが、身につけた知識と学ぶ姿勢は必ず役立つので頑張ってください。



留学や三沢米軍病院での研修
グローバルな学びの機会が充実

医学部医学科4年
藤原 悠香 さん
●京都府立桃山高等学校出身

中学生の時、祖母が乳がんで亡くなりました。自宅で最期を迎えたいという祖母のために、私たち家族の気持ちに寄り添い、支え続けてくれた医療スタッフの皆さんの姿に憧れ、医師を目指したいと思いました。

弘前大学では、1年次に全学部の学生と一緒に学ぶ教養科目の授業があります。学部を越え、さまざまな考え方や価値観を持つ学生と交流できるのは、まさに総合大学ならではの強み。多様な意見にふれながら視野を広げ、自ら考える経験は、将来必ず役立つと思っています。

また、弘前大学は、地域に根ざし世界に羽ばたく医師を育てることに力を入れています。海外の協定校も多く、私も3年の夏にハワイ大学に留学しました。PBL（課題解決型学習）の授業では、日頃、学んだ知識を生かし現地の医学生と意見交換するなど貴重な体験をしました。他にも三沢米軍病院での研修など、さまざまな学びの機会があるのが弘前大学の魅力です。弘前の街はレトロなカフェなど素敵なスポットも多く、温かい人が多いのでとても住みやすい街です。将来は、チームとして力を発揮しながら患者さんに寄り添える医師を目指しています。



「スポーツ医学」の分野に興味
技術と人間性を併せ持つ医師に

医学部医学科3年
加福 陽子 さん
●青森県立青森高等学校出身

中学・高校時代、ソフトボール部に所属しており、将来はスポーツで怪我をした人を支える理学療法士になりたいと思っていました。調べているうちに、「スポーツ医学」という分野があり、医師として治療やサポートができること知り興味が湧きました。将来は、地元で働きたいと思っていたので、地域に根ざした取組みを行なっている弘前大学への入学を希望しました。

現在は、2年で学んだ解剖学、生理学などの基礎医学をふまえて、臨床科目を学んでいます。実際に臨床の先生が授業を行なってくれるので、さまざまな症例について具体的に学ぶことができます。授業が終わった後に、質問の時間を設けてくれるなど、先生方はいつもきめ細かく指導していただけます。

現在、医学部のバスケットと、全学の軟式野球部のマネージャーを務めており、友人と一緒にショッピングやカフェ巡りに出かけることもあります。医師としての知識・技術を高めることはもちろん、「この先生と話す元気が出る」と、思ってもらえるような優しい笑顔と包容力がある医師を目指しています。



幅広い視野を身につけ
チーム医療を担いたい

医学部医学科5年
石田 航 さん
●秋田県立大館鳳凰高等学校出身

医師不足に悩むふさとの地域医療に貢献したいと思い、医学部を志望しました。現在、附属病院のすべての診療科を回る臨床実習の真っ最中です。今、実習を行なっている「高度救命救急センター」は、救命救急センターのなかでも特に高度な救急医療を提供する機関です。各県に1ヶ所指定されており、命に関わる突然の病気や交通事故などで、一刻を争う患者さんが運ばれてきます。そんななか、医師、看護師、技師などすべてのスタッフが協力しながら救急医療にあたる姿を見て、これまで以上にチームワークの大切さを実感しています。

弘前大学の先生方は教え方もいいので、いつも親身になって指導していただけます。附属病院では大きな手術も多く、多種多様な症例にふれる機会があるため、より実践的にスキルを磨くことができるのが魅力です。

全学のスキー部に所属し、他学部の学生と一緒に合宿やお花見、バーベキュー、ドライブなどにかけています。総合大学なので、多くの人との交流によって人間関係を学ぶことができ、将来、チーム医療を担う医療人として成長できる大学だと思います。





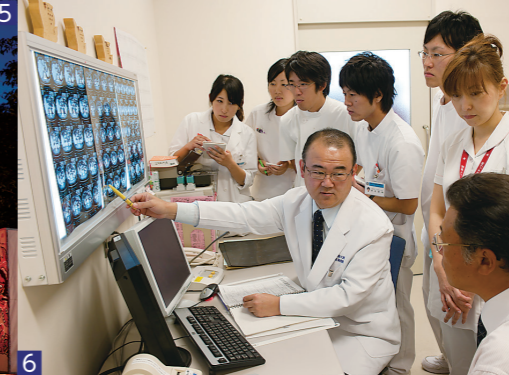
1



4



5



6



9

Campus Photo Gallery

実習や卒業研修に励む学生たち

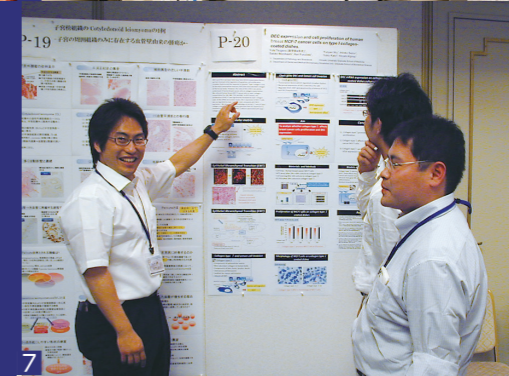


2



3

- 1 整形外科手術(人工関節置換術)
- 2 病理診断カンファレンス
- 3 整形外科手術(人工関節置換術)
- 4 病理診断学講座
- 5 ねぶた祭り(8月第1週)
弘前大学は毎年出陣(参加)
- 6 臨床実習
附属病院外科外来
- 7 研究室研修の一環として全国学会において英語
で発表
- 8 臨床実習
附属病院内科外来
- 9 病理生命科学講座
手術切除材料検索のための写真撮影
- 10 ベスト研修医賞
医学部長と附属病院長より毎年表彰



7



8



10

医学科カリキュラム

弘前大学医学科の教育課程の特徴は、診療参加型教育、地域医療教育、少人数教育にあります。診療参加型としては、早期臨床体験実習(1年次)、臨床実習(クリニカルクラークシップ)(5-6年次)が挙げられます。1年次の早期臨床体験実習は附属病院と学外施設(障害者支援施設、老人ホームなど)で行っています。さらに、6年次の臨床実習では、学外を含む4病院(診療科)を体験します。地域医療教育としては、地域医療入門(2年次)、社会医学実習(3年次)があり、6年次の臨床実習では4週間の地域(へき地)医療実習を義務付けています。少人数教育としては、基礎人体科学演習(1年次)、研究室研修(3年次)、PBL(Problem-based Learning)(4年次)を導入し、研究室研修発表会では全員が発表と質疑応答を行います。さらに、医師としての役割や医療倫理に関しては、医の原則(1年次)、医療安全学(4年

次)の授業を実施しています。

これらの授業の展開により、入学後早期からの医療現場の体験、地域医療を含む体験型臨床実習の実施、地域社会との連携による医療関連教育の実践を行い、職業観の涵養や社会に参画する意欲・態度の形成、専門的職業人(医師)としての役割、そして郷土愛を身に付けます。

卒業後は医師国家試験を経て、2年間の臨床研修(初期研修)を行います。弘前大学医学部附属病院では種々の研修プログラムを用意し、研修医のニーズに応じています。また、大学院に入学して研究をしながら引き続き臨床経験を積むことができます。

更に、専門医をめざし臨床研修に特化したトレーニングを続けることも可能です。



卒前・卒後の一貫教育で将来を担う医師養成

- 医学・医療は日進月歩で、医師は生涯学習により、常に己を高めながら、社会に貢献することが求められます。
- このため、弘前大学医学部医学科では、学部教育に加え、卒業後も一環とした教育を目指しています。
- 卒後2年間の臨床研修(初期研修)は、医師として必修です(厚生労働省で義務化)。
- その後、専門医研修(3~4年程度:後期研修)を経て専門医取得が可能です。
 - なお、専門医研修プログラムは、大学病院等(基幹研修施設)と関連研修施設等が、指導体制を構築し、研修の質を担保することが求められています。
- 研究(科学)は進歩に不可欠
 - 大学院での科学的思考・実践 → 学位(博士)取得

専門医 & 学位(博士) = 車の両輪

専門医・学位取得を目指す医学科卒業後の進路

大学病院と地域拠点病院 → 専門医取得



大学院進学(社会人大学院) → 学位取得 + 専門医取得



大学院進学(社会人大学院) → 学位取得、留学(postdoctoral fellowship) + 専門医取得



- 大学卒業後、2年間の臨床研修(初期研修)は医師として必修
- 専門医取得には、臨床研修後3年間程度の専門医研修が必要
- 博士(医学)取得には、4年間の大学院在学が必要



関連施設紹介 | Related facilities introduction



医学部附属病院

本病院は、医学部学生の臨床実習に中心的な役割を果たしています。また、臨床研究をはじめとする医学研究の場としての重要な機能もっています。さらに、臨床研修病院の指定を受けており、国立大学附属病院卒業後臨床研修共通カリキュラムに沿って若手医師の臨床研修を行っています。本病院は特定機能病院の指定を受けており、通常の診療のみならず、高度の医療の提供・開発・評価及び研修を行う施設として青森県の医療の中心的な役割を担っています。

高度救命救急センター

命に関わる突然の病気、予期せぬ交通事故、そんな重傷の患者さんに24時間、365日、高度な救急医療を提供するのが救命救急センターです。

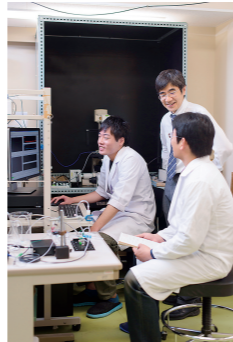
その救命救急センターの中でも各県に1カ所指定されるのが高度救命救急センターで、救命救急センターの機能に加え、重症全身熱傷、指の切断の再接着手術、急性重症中毒に対しても常に受け入れられる施設が高度救命救急センターです。外来棟屋上にはヘリポートを設置し、青森県のどこからでも患者さんを受け入れる体制を整備しています。弘前大学では、高度な医療とともに将来、青森県の救急医療を担う若い救急医を育成することもその責務だと考えています。さらに青森県の危機管理の一翼を担うため「緊急被ばく医療」の体制も整備を進めています。

青森県、そして地域の医師たちとの強い連携のもと、私たちの住む青森県を日本で一番住みよい地域、安心して住める地域にするため大学病院の総力をあげて努力します。



医学研究科附属 脳神経血管病態研究施設

本施設は脳卒中の基礎及び臨床研究と、その実地応用を目的に1965年に「脳卒中研究施設」として設置されました。そして、広く脳神経疾患の成因・病態の解明、診断法の確立、治療・社会復帰促進などに関する研究を推進してきました。1999年に発展的改組が行われ、現在の「脳神経血管病態研究施設」となりました。さらに2007年部局化により現在、本施設は、脳神経病理学、脳血管病態学、脳神経生理学、脳神経内科学(附属病院神経内科を兼ねる)の4講座からなり、先進的な脳神経科学領域の研究成果を世界に向けて発信し続けています。



医学研究科附属高度先進医学研究センター

本センターは、専任の研究部門と共同研究施設としての機能を備え、分子生物学及び糖鎖工学を基盤とした基礎医学と臨床医学の融合的研究を推進する目的で2005年に設置されました。専任の研究グループは自ら先進的研究を進めるとともに、高度な分子生物学的及び糖鎖工学研究技術をもって、全学の研究グループとの共同研究や研究支援を行っています。



弘前大学医学部コミュニケーションセンター

本センターは、医学部と一般市民および地域医師等との交流を深める場として、保健及び医療に関する知識の普及並びに最新の医学知識と医療技術の研修等を行うとともに生涯学習の一層の充実を図ることを目的に、弘前大学医学部創立50周年を記念して設置されたものです。センターは、本学教職員のみならず一般市民対象の生涯学習及び一般医師等の医学研修会・検討会等に使用されています。



奨学金について | Scholarship

学業・人物ともに優秀かつ健康であって、経済的理由により修学が困難と認められる者に対し、本人の申請に基づき、選考の上、奨学金が貸与されます。

青森県国民健康保険団体連合会

将来弘前大学大学院医学研究科・附属病院や青森県内の自治体医療機関で働く希望を持っている人達に修学に必要な資金が援助されます。

(平成31年度参考)

入学区分	支援内容	支援対象者	資金返還免除の条件	募集定員
通常入学	【特別枠】 入学料 授業料 (毎年度) 奨学金 (毎月) (月10万円・入学月のみ20万円)	原則として青森県出身者とするが、大学が推薦する県外出身者も若干名対象とする。	卒業後、青森県が設置している「青森地域医療支援センター」に登録し、支援期間の1.5倍の年数、弘前大学大学院医学研究科・附属病院または県内の指定医療機関に医師として勤務すること。	5名
	【一般枠】 入学料 授業料 (毎年度)	同上	卒業後、支援期間と同年数、弘前大学大学院医学研究科・附属病院または県内の指定医療機関に医師として勤務すること。	22名
学士入学 (2年次編入)	【学士枠】 入学料 授業料 (毎年度) 奨学金 (毎月) (月10万円・入学月のみ20万円)	同上	卒業後、支援期間の1.5倍の年数、弘前大学大学院医学研究科・附属病院または県内の指定医療機関に医師として勤務すること。	3名

公益信託黄傳明・若子記念医学生奨学金基金

- 1) 主旨: 将来は「ふるさと」の医療に従事したいとの志をもつ医師の育成支援
- 2) 応募資格: 次の事項のすべてに該当する4年次の学生
 - (1) 青森県所在の大学医学部に在学する我が国または台湾出身の者
 - (2) 学業、人物ともに優秀であり、かつ健康である者
 - (3) 学費の支払いが困難である者
 - (4) 将来は青森県または台湾で臨床医療に従事することを希望する者
- 3) 募集人員: 4年次1名
- 4) 金額・納付期間: 卒業まで月額15万円で、返済は不要

日本学生支援機構

日本学生支援機構が募集する奨学金制度で、高校在学中に申し込む〔予約採用〕と大学入学後に申し込む〔在学採用〕があります。〔在学採用〕の募集は4月で、弘前大学では入学式以降に実施する説明会で関係書類を配布しています。

(平成31年度参考)

区分	第一種 (無利子)		第二種 (有利子/在学中は無利子)
	貸与月額	返還方法	
貸与月額	自宅通学者	20,000円または30,000円または45,000円	20,000円から120,000円の間で10,000円単位で額を選択
	自宅外通学者	20,000円または30,000円または40,000円または51,000円	
入学時特別増額貸与	10万円、20万円、30万円、40万円、50万円から選択(有利子)。対象は第一種奨学金または第二種奨学金の貸与を4月から受ける者で、初回振込時に一時金として貸与される。		
貸与期間	最短修業年限の範囲内		
返還方法	卒業後20年を限度として定められた期間内に返還		

- 日本学生支援機構の他にも、地方公共団体や民間団体等の奨学金制度があり、大学の推薦によるものと直接本人の申請によるものがあります。
- 貸与又は給付される奨学金は、月額20,000円～50,000円程度です。なお、団体等によっては、日本学生支援機構との重複採用を認めないところがあります。

サークル | Circle

体育系

陸上競技部
準硬式野球部
硬式庭球部
ソフトテニス部
水泳部
サッカー部
ラグビー部
バレーボール部 (男子)
バレーボール部 (女子)
バスケットボール部 (男子)
バスケットボール部 (女子)

バトミントン部
卓球部
剣道部
競技スキー部
ゴルフ部
弓道部
空手道部
山岳部
自転車競技部
柔道部

文化系

写真部
茶道部
漢方医学研究会
国際医療研究会
管弦楽団
Medical Cool Quartet
グリーンキャンパスクラブ
Q' est
雪同好会『雪りんご』



競技スキー部



管弦楽団



Medical Cool Quartet



Q' est



剣道部



ゴルフ部



ラグビー部



空手道部



自転車競技部



硬式庭球部

国際交流 | International exchange

弘前大学は、平成31年4月現在、世界21の国・地域の47大学と大学間交流協定を結んでおり、その他、医学部単独では4カ国4学部と学部間協定を結んでいます。これらの内、スロベニアのリュブリャナ大学や台湾の馬偕醫學院とは交換学生の協定を結び臨床実習の単位取得も可能な研修の機会を提供しています。

また大学間交流とは別に、三沢米空軍病院においても同様の研修(エクスターン)が可能で、こちらも毎年4名程度の学生がお世話になっています。

これらはいずれも大好評で、毎年多数の学生が応募していますが、医学研究科国際交流研究委員会が様々な観点から人選してきました。学生のうちに海外の医学教育の一端に触れることができる機会は、いろいろな意味で大変貴重であると考えられ、また、実際にこれらの研修を経験した学生達は大いに満足しています。



著名研究者による

特別講義 | Special lecture

ヘリコバクター・ピロリの発見と消化性潰瘍との関係を明らかにし、2005年のノーベル生理学・医学賞を授賞したオーストラリアのWarren博士(上段)や、ゲル電気泳動法の開発と遺伝子改変動物の作製・遺伝子標的法の技術を確立し2007年のノーベル生理学・医学賞を授賞したアメリカのSmithies博士(下段)による特別講演が行われました。

